

取り付けメソッド 1

- ・取付前に必ず取付メソッドをお読みいただき装着してください。取付のポイントなども明記しています。
- ・弊社ホームページに取付動画もございます

※革の意いた部分(薄くした部分)はあとでエアバック側面部に押し込むため、両面テープを貼らないでください。



貼らない部分



貼らない部分



① 革本体を裏返し、付属の両面テープを使用して本体裏側に写真のように 6 cm 程度に短く切ってミシン目の上に貼り付けます。

② グリップ部分は凹みを出すために 3 重にしてください。
重要!! 革を薄くした部分には両面テープは貼りません。

③ まずはステアリング下部(6時の位置)から本体をステアリングに貼り付けます。

④ 取り付け位置を慎重に確認して下さい。
重要!! 最初の取り付け位置が悪いと全体が上手く収まらなくなります。



⑤ 両面テープは貼り直しが出来ますので、左右のバランスを確認しながら貼り直し作業をしてください。

⑥ 本体をステアリングに被せます。
両面テープを貼り付ける順番は6時-12時-3時、9時の順番です。

⑦ 本体を被せたのち、ステアリングに対して左右が均等になるように調整します。

⑧ 両面テープを剥がす前に写真のように縫い合わせ位置を確認してください。



⑨ 貼り付け位置が決まったのち、残った両面テープをすべて剥がし貼り付ける準備をします。

⑩ 次にステアリング上部(12時の位置)を貼り付けます。

⑪ 次にステアリング左右部分(3時9時の位置)を貼り付けます。

⑫ 写真のようなカーブ部分は左右に引っ張るのではなく、カーブ部分にたるみを持たすようにすると上手く貼り付けできます。

取り付けメソッド2

- ・革本体をステアリングに貼り付けする作業に時間をかけていただくと、のちの縫製が比較的楽です。
- ・取り付けメソッドはエアバックを外さず装着するための手順書です。エアバックを外して装着をされる方は専門の整備工場にご依頼ください。(※ステアリングを外さないで装着できない車種もあります。)



① 革と革の合わせ目(縫い合わせ位置)が開きすぎないように貼り付けてください。



② ステアリング表側の余った革をヘラを使いエアバックとの隙間に少しずつ慎重に差し込んでください。
裏側は最後に行います。



③ 両面テープを貼り終えたのも再度本体位置を確認してください。特に本体革のつなぎ目がズレていないかなど。



④ 革のシワが内側に均等に入れるようにしてください。
次は縫い合わせです。



⑤ 付属の針と糸を使いミシン縫製糸にひっかけるように縫い上げます。手順については「**縫い合わせメソッド**」を参照してください。



取付ポイント
⑥ 針は写真のように、一度で手前と奥の2目を通すようにすると作業スピードが向上します。
※革キズに気を付けて！



取付ポイント
⑦ 縫い合わせについては右利きの人は手前から奥(時計と反対回り)に縫い合わせると作業が比較的しやすいです。



取付ポイント
⑧ 作業は縫い合わせる部分を常に下部にもってくることで左手で縫い合わせ目を押さえやすく作業がしやすくなります。



⑨ 縫製終了後、ステアリング裏側の余った革を押し込みます。



⑩ 車種によっては押し込みにくい場合もあります。その場合は両面テープでステアリングカバーに貼り付けてください。



⑪ 完成です。
ステアリングを持ちゆるみがないか最終の装着確認を行ってください。

※ ステアリングを車種から外さないで巻き替えが出来ない車種もございます。
※ 取り付けメソッドはエアバックを外さず装着するための手順書です。エアバックを外して装着をされる方は専門の整備工場にご依頼ください。

縫い合わせメソッド

- ・縫い合わせ前に再度革本体を確認し、出来るだけ革と革の間に隙間がなくなるように貼り直してください。
- ・縫い合わせは針を使用しますので怪我に十分注意してください。

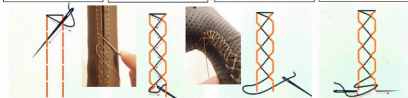


① ○糸の端部を2-3度結び玉を作ります。
1針目は本体内側から本体外側に向かって挿糸を固定します。

② 2針目は1針目と平行になる位置で本体外から内側へ向かって挿こみます。

③ 3針目は再び1針目と同様の位置から外側へ向かって挿糸を固定します
※革に糸をいれることで糸が抜けにくくなります。

④ 4針目はミシン縫製糸の下に針を通します。

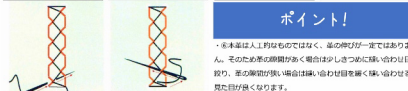


⑤ 左右とも同様に1日開けながら、左右の縫製糸に針を通します。※お好みで1日あけずに縫うのもきれいです。

⑥ 左右のバランスをとりながら縫い合わせてください。

⑦ カープなど外側と内側に差がある部分は縫い合わせ目を調整してください。

⑧ 糸の終り部については図のように針を本体外側から内側へ内側から外側へ革の中を通します。※糸が抜けにくくなる効果があります。



⑨ 本体内側に通した針をつなぎ目から取り出してください。

⑩ 取り出した糸を再度ミシン縫製糸に通し、そのままミシン縫製糸に結びつけた後、ハサミで切断してください。

ポイント!

・⑧本革は人工的なものではなく、革の伸びが一定ではありません。そのため革の隙間があく場合は少しきつめに縫い合わせ目を絞り、革の隙間が狭い場合は縫い合わせ目を緩く縫い合わせると見た目が良くなります。

・⑥⑦カーブ部分などでは左右のミシン縫製糸目が平行にならない事があります。その場合は1日あけずに縫い上げることで、左右のバランスと最終の仕上がりを綺麗にすることが出来ます。

・⑩端部を縫製糸に結びつけた後、ライターなどで切断面を軽くあぶると糸が絡まり結び目がはだけにくくなります。